



スノードロップの絨毯が広がる森

ウェルフォード・パークを征く

■「雪のしずく」の名のとおり、雪のように真っ白な花をつける可憐な植物「スノードロップ（和名・待雪草／まつゆきそう）」。今号では、森一面を雪景色のように白く染めてしまおう、英国屈指のスノードロップの名勝地をご紹介します。オミクロン株が猛威を振るう中、できるだけ人混みを避けながらも週末を楽しみたい人には、イチオシの場所だ。

冬の終わりを告げる声



草花をこよなく愛する国、英国の花ごよみは、まだまだ寒さの厳しい1月末頃に姿を現すスノードロップから始まる。そして、長かった冬の終焉を告げるこの花の後を追うようにしてクロッカス、スイセンなどが順に咲き始め、3月末の夏時間を迎えると、英国にようやく春本番がやってくる。

ヨーロッパで何世紀にも渡り、愛され続けてきたスノードロップが咲き乱れる屈指の名勝地「ウェルフォード・パーク」があるのは、ロンドンからひたすら西へと向かったバークシャーのニューベリー近郊に広がる田園地帯。毎年1月末から2月にかけて、広大な敷地の一角にあるブナの森に、まるで雪が降り積もったかのような、一面真っ白な景色が現れる。

古くは修道院が所有していたとされる同所は、英国王ヘンリー8世の狩猟地として利用され、その後、1618年にのちのロンドン市長フランシス・ジョーンズに購入された。それから400年ほどが経過した現在に至るまでジョーンズ一族が所有しており、同所の歴史上、売買されたのはこの一度だけだ。

敷地内には、1652年に建てられたジャコビアン様式の赤レンガ造りの邸宅があり、今も私邸として使用されている。莫大な維持費問題などの理由で転売が繰り返され、ホテルや学校として再開発されるマナーハウスやカントリーハウスが多い中、数世紀もの



Snowdrops

野生種は20種。その20種から、1000とも2000ともいわれる品種改良種が開発されている。スノードロップは比較的育てやすいとされ、入手方法は開花の時期に出回る鉢植えをガーデンセンターなどで購入するか、球根をオンライン注文するのが一般的。湿った半日陰の場所を好むため、腐葉土や堆肥とともに植え、土の乾燥を防ぐとよい。

.....
学名 : Galanthus
英名 : Snowdrop
和名 : 待雪草
原産地 : ヨーロッパ各地
花言葉 : 希望、慰め
植える時期 : 4月下旬～5月
開花時期 : 1月～3月



Travel Information

2022年1月24日現在

Welford Park

Welford, Newbury, Berkshire RG20 8HU
www.welfordpark.co.uk

開園期間

2022年2月3日(水)～3月6日(日)
水～日: 午前11時～午後4時
(月・火曜は休園)

入場料

大人: 10ポンド
子ども4歳以上: 5ポンド

アクセス

車...ロンドン中心部よりM4で約66マイル、所要約1時間30分。
無料駐車場あり(午前10時30分～午後5時30分)。
電車...Paddingtonよりナショナル・レールでNewbury下車、バス4番でWelford Park下車。所要約2時間。



キリスト教に深い関わりを持ち、「清めの花」として古くから修道士や修道女に愛され、修道院や教会の敷地、墓地などに好んで植えられてきた花でもある。毎年2月2日、聖母マリアとその夫である聖ヨセフによってイエス・キリストが神殿に連れて来られたことを祝う「聖燭祭(Candelmas)」には、教会内や祭壇にスノードロップの花が飾られる。

ウエルフォード・パークがスノードロップの群生地となった起源も、同地がかつて修道院の所有地であったからで、修道士たちの手によって大切に植えられたスノードロップが、何世紀もの時をかけて人々を魅了するほどの群生地になった——と想像すると、身が引き締まるような神聖さも感じさせる。

学名は「ガランサス(Galanthus)」。ギリシャ語で「乳のように白い花」という意味を持つ。英名のスノードロップに関する言い伝えは諸説あるが、「禁断の果実を食べ、エデンの園を追われたアダムとイヴ。悲しむイヴをあわれんだ天使が彼女を慰めようと、舞い落ちてきた雪を花に変えた」という、悲しくもロマンティックな聖書のエピソードがその由来として有力視されている。

しずく型の小さな白花をうつむくように下向きに咲かせ、陽が当たると3枚の花びらをそっと開かせる。夜は再び静かに花びらを閉ざし、1日で異なる表情を見せるのがスノードロップの特徴。純白可憐で楚楚とした姿は、恥じらう乙女のような姿もある。

..... 修道士に愛された清めの花



間、同系一族が受け継いできたウエルフォード・パークは非常に稀有な存在といえるだろう。普段は公開されていない同地が1年に一度だけ一般に門を開くのが、このスノードロップが咲く季節。美しく咲き乱れる花々を見ようと、毎年多くの人々が訪れ、幻想的な景色に魅せられている。



©Paul Stevers/LRPS_house/acconites

1 キバナセンプツソウの黄色が、より春らしさを演出。英国ならではの早春の風景に心が踊る。

白の絨毯の森を散策!

ロンドン北部からM4を西へと車を走らせること、およそ1時間半。いざ森歩きに出発!

邸宅前に広がる緑地を歩き出すと、まず現れるのがスノードロップとキンポウゲ科の小さな花「キバナセンプツソウ (Eranthis)」が共生する花畑**(1)**。真っ白なスノードロップと鮮やかな黄色のキバナセンプツソウの対比が美しい。白鳥やカモが羽を休める澄んだ小川**(2)**を横目に、森へと向かう道を進むと、小川に架かる橋を

発見**(3)**。まるで童話に出てくるような木橋を渡れば、いよいよスノードロップの森だ**(4)**。葉が落ちた裸同然のブナの森にどこまでも広がるスノードロップは、まさに降り積もった雪のよう…。その自然の美しさに感動すること間違いなし! ウェルフォード・パークの散策ルートはゆっくり歩いて1時間程度なので、日頃、長時間歩かない人や運動不足の人でも安心。百聞は一見にしかず。汚れてもいい靴と暖かい服装で、2月の学校のハーフトームにご家族で一足早く春を探しに出かけてみては?



2 散策ルートでは、花畑や小川などの景色も楽しめる。



3 冒険心をくすぐる橋を渡って…。



4 この看板の先は、スノードロップが群生する森!